

② HRの時間の司会をさせなかった。

③ 授業時間の指名をしないことについて、担当教科の先生に事情を話して配慮してもらった。なお、体育時は、場合によっては見学を許可してもらうなどの配慮を依頼した。

(5) 乗物に対する不安を除去する指導

- 本人にバスに乗れるよう計画をたてさせた。

目 標 バスに乗って登校できる。

そのため、次のような順序を経た。

- ① 朝、自分で起きられるようにする。
- ② 朝食をかならず食べる。
- ③ 毎朝、必ずトイレに行く。
- ④ メンタルリハーサルをする。

<メンタルリハーサルの実際>

ア 自律訓練法を実施する。

イ 朝、家を出るところから学校に到達するまでの道順に従い、乗物（バス、列車等）の乗り降りについて、細かくイメージをする。

ウ イメージの過程で緊張したり、不快感を感じた場合は、自律訓練法をし、その後再度その場面をイメージする。

なお、メンタルリハーサルは学校生活場面での適応を図るためにも用いた。

- ⑤ バス乗車の練習をした。

バス通学での不快感がへってきて、2学期末には乗物に自由に乗れるようになった。

(6) 本人が日常、自由で気楽な生活ができるための指導

- 店の手伝い、配達などをさせ、父親との会話

の機会を多くし、少しのことでもほめた。

- 本人は写真撮影に興味をもっているので、その趣味をふくらませよう、知人を紹介し写真撮影の指導を受けさせた。

- 家庭生活では、細かく指導せず、本人にまかせるようにし本人の物事の判断を尊重した。

8. 考 察

指導援助の結果、次のような変容がみられた。

- ① 学校生活において、下痢や腹痛がほとんど消失した。

- ② 通学途上でも症状が消失した。

- ③ 家庭でも伸び伸びと生活できるようになった。

以上のことは、環境調整が図られ、自律訓練法、メンタルリハーサルなどの適切な心理療法と家族の変容を図る家族療法的アプローチが功を奏した成果と考えられる。